

様々な分野で活躍する鶴ヶ島市民を紹介する「キラリ☆つるびと」。
今回は特別編として、「埼玉県防災航空隊」で活躍する4人をご紹介します！
ヘリコプターを使って、県内・県外で救助活動などを行う防災航空隊。
救助のエキスパートであるこのチームに、鶴ヶ島市民4人が揃うのはとても珍しい
そうです。
比企郡川島町にある埼玉県の防災航空センターにお邪魔して、お話を伺いました。

キラリ☆つるびと特別編 埼玉県防災航空隊



～鶴ヶ島から命を守る人～

一飛同心



整備士

おがわ あきお
小川 明夫さん

本田航空（株）に所属する整備士。出場要請時に、いつでもヘリコプターが飛べるように、絶え間なく機体を仕上げる。高倉の獅子舞や消防団など、地域活動にも積極的に取り組んでいる。



副隊長

こしま よういち
小嶋 洋一さん

令和2年度から川越地区消防局より防災航空隊へ派遣。様々な調整など、副隊長としてチームをけん引する。生まれも育ちも鶴ヶ島市。「電車でも車でも各方面へのアクセスが良い」と鶴ヶ島市がお気に入り。



隊員

いづか まさし
飯塚 政史さん

令和3年度から坂戸・鶴ヶ島消防組合より防災航空隊へ派遣。降下隊員として、地上の最前線で活躍。幼少期から鶴ヶ島市に在住。幼稚園児の時に七夕に書いた願いは「消防士になりたい」。



操縦士

なかじま ゆうた
中島 悠太さん

本田航空（株）に所属する操縦士。ヘリコプターの操縦のほか、飛行可否の天候判断や飛行に係る調整などを行う。鶴ヶ島市のお気に入りポイントは、空が高いところと「つるゴン」!!

知っていますか？
「防災航空隊」

埼玉県防災航空隊は、ヘリコプターで山岳救助や水難救助などの活動を行う、空からの救助のエキスパートです。また、ドクターヘリが運航できないときの補完運航、台風災害や豪雨災害の現場への応援出場もしています。埼玉県内のみならず、県外の防災活動を支援するなどして、多くの人々の命を守っています。そして、これらの危険と隣り合わせのレスキュー任務にあたるのは、各市町村から選ばれた精鋭消防士です。役職に応じて、3年間から4年間、防災航空隊に出向して任務にあたります。また、任務で搭乗するヘリコプターは全て埼玉県が所有しており、ヘリコプターの操縦と整備は、本田航空(株)に委託しています。平成3年、埼玉県・県内の市町村・民間航空会社の官民連携による航空隊として、川島町にある同社の敷地内に日本で初めて組織されました。



防災航空隊が実際に山岳救助している動画はこちらから。埼玉県防災航空隊のFacebookに移動します。

「防災航空隊」の
「コゴがスゴイ!!」

埼玉県の山奥で山岳救助をする場合、地上隊では現場まで3〜4時間かかりますが、ヘリコプターなら20分で到着！初動の早さが防災航空隊の強みです。埼玉県防災航空隊は1チーム3名の精鋭消防士で構成され、5チーム編成です。チームに加えて、本田航空(株)の操縦士11名と整備士12名とで、365日24時間体制で勤務しています。消防士と本田航空の社員が一丸となって切磋琢磨しながら、日々、救命活動を行っています。



隊員が救助に向かう様子

防災航空隊を志した
きっかけ

小嶋 私は川越地区消防局に所属しており、3年間の任期で防災航空隊に出向しています。消防士を志したのは、人の役に立ち誇りを持てるような仕事があったからです。川越地区消防局に奉職し、初任教育の研修の中で、防災航空隊の存在を知り、格好いいと感じたのを覚えています。消防局で救助隊として勤務するうちに、実際に航空隊に入隊したいという気持ちがさらに沸き上がり、志願しました。

飯塚 私は坂戸・鶴ヶ島消防組合に所属しており、同じく3年間の任期で出向しています。幼稚園の時に「消防士になりたい」と思ったのが、人生で初めて思い描いた夢でした。目指すなら、生まれ育った鶴ヶ島の「消防士になりたい」と思い、坂戸・鶴ヶ島消防組合に奉職しました。小嶋副隊長と同様に最初の研修で航空隊の存在を知って憧れをいただき、志願しました。

中島 昔から漠然と「空を飛んでみたい」という思いがありました。そして、自分の誕生日に、現在の妻とヘリコプターに乗って、ものすごく感動したんです。「これだ。やりたい」と、そこから具体的に操縦士を



ヘリコプターでの救助の様子



山岳救助の様子

防災航空隊での仕事
とやりがい

小嶋 副隊長として、1日の航空隊員の訓練内容の調整などを行っています。災害時は運航指揮者として、航空センターを離陸してからミツシヨンを終え航空センターに着陸するまでの全ての活動調整を行っています。救助した方からお礼の手紙をいただいたときには本当にやりがいを感じます。また、全国の航空隊の方々と顔の見える関係を築くことができ、今後も情報交換を行い、切磋琢磨しながら、仕事に励んでいきたいと思っています。

飯塚 山岳遭難事故、水難事故、火災、広域応援などの各種災害対応。坂戸・鶴ヶ島消防組合から派遣される2年目となり、現在は降下隊員として地上活動の指揮を任されています。怪我をしている人や困っている人を助けられることがやりがいであり、簡単に助けられるものではないので、苦労していることもあります。

中島 ヘリコプターの操縦士として、飛行前に飛行ルートの天候確認や燃料搭載量の決定などを行います。救助活動中は「ホバリング」と言ってヘリコプターを空中停止させるのですが、ホバリングが一番パワーが出来ます。現場でホバリングが出来

る重量になるように燃料の調整を行います。人命救助のプロフェッショナルである航空隊員の方が最高のパフォーマンスを発揮できるように日々腕を磨き、操縦で隊員の要求に応えられたときやりがいを感じます。

小川 飛行前後や定期的な点検、給油、トローリング(けん引)、航空部品の調達や管理を行います。埼玉県防災航空隊では、官民一体となり、消防士や操縦士、整備士それぞれの技術力を持ち寄ります。他では得られない知識や経験を得て、スキルアップするとともに、人の役に立つことができるのがやりがいです。



取材当日はヘリコプターのトローリングを行っていました。



「一心同飛(いちひどうしん)」みんな同じ気持ちで飛ぶ。防災航空隊の待機所に掲げられているスローガン。



取材当日は、特別にヘリコプターの格納庫内を見せていただきました。



4人が勤める防災航空センター。県央に位置する川島町にあり、埼玉県各地へ、ヘリコプターで15〜20分以内に到着できる。

辛い経験を教訓に

小嶋 埼玉県防災航空隊は平成16年7月20日の訓練中の事故、平成22年7月25日の山岳救助活動中の墜落事故と、辛く悲しい事故を二度経験しています。そこから全ての活動を一から見直すなど、安全に最大限配慮し、現在に至っています。事故を風化させることなく、語り継ぐことで「二度と事故を起こさない」「起こさせない」という強い意志を持ち、活動しています。災害現場に出場したら必ず無事に帰ってくる。そして家族の元へ普段通りに帰る。それが私の使命だと考えています。

中島 家族の協力も非常に重要になってくる。大きな事故に合う可能性があるわけですから、航空隊を目指すとなっても家族の理解がなければ、難しい。毎年、いろんな航空隊の視察研修に行かせていただく中で、埼玉県防災航空隊は事故があったからこそ、安全意識が高いと感じます。



過去の事故を教訓に真剣な眼差しで整備する様子



防災航空隊が所有するヘリコプターは全部で3機。左からイタリア製の「あらかわ3」、フランス製の「あらかわ2」、イタリア製の「あらかわ4」。



水難救助の訓練の様子



火災対応で消火水を汲水している様子

防災航空隊に所属するつるびと4人を取材して

取材当日、防災航空隊の方々には温かく取材班を迎えてくださいました。副隊長を始め、隊員、操縦士、整備士とそれぞれ役割が異なる中でもお互いを尊敬し、気遣い、時には冗談も言い合う。チームの風通しが良く、皆さんが固い信頼関係で結ばれていることがわかりました。取材の中で、「空からの救助は、地上の救助ほど難しい手技は用いていない。しかし、時間的制約や悪天候の中で救助を行わないといけない。1つ失敗すると、地上ならやり直しが効くことも、空からの救助だと、やり直しが効かないこともある。このあたりは、地上とは違う難しいところだ」という話が特に印象に残っています。過去2回の事故から、全ての体制を見直し、基本に忠実にすることで、非常に高い安全意識を確保している。それに加えて、コミュニケーションが非常に円滑に取れている。埼玉県防災航空隊は隊員1人ひとりが生き生きと活動できる場所、輝ける場所だと感じました。



最高のチームでした!!
取材にご協力いただき、ありがとうございました!!

防災航空隊に興味・関心を持った方へ
おすすめのイベントあります!

消防署を公開します

坂戸・鶴ヶ島消防組合では、11月9日の「119番の日」に合わせて、消防指令センター、鶴ヶ島消防署および坂戸市内の消防署を市民の皆さんに公開します。119番通報を受ける消防指令センターや消防車など普段あまり見ることがない消防署の内部を見学できます。

- 📅 11月3日(祝)～9日(水)9時～16時
- 📍 消防指令センター、鶴ヶ島消防署、坂戸消防署、東分署、西分署
- 📞 坂戸・鶴ヶ島消防組合消防本部 指揮指令課 ☎281・3495



今回のキラリ☆つるびとはいかがでしたか?

今回は埼玉県防災航空隊で活躍している4人にスポットをあて、紹介させていただきました。今回の特集で、防災航空隊の存在を知った方もいるのではないのでしょうか。埼玉県防災航空隊では時期にもよりますが、体験や見学ができるイベントも開催しています。詳細は埼玉県ホームページをご確認ください。

この特集をきっかけに、防災航空隊がこれから将来の夢を考える子どもたちの夢の選択肢の1つになったら、うれしいです。今後もキラリ☆つるびとでは、様々な分野で活躍する鶴ヶ島市民を紹介していきます!お楽しみに!



県防災航空隊のHPIはこちら